



田井 真一 議員
(改革未来・自民の風)
(加西維新の会)

条例で規制を

～ 金属スクラップヤードの不適正管理から市民生活を守るために ～



市としての現状認識は

問 近年、再生資源物の屋外保管（金属スクラップヤード）が見受けられる。不適正な管理が放置されれば、有害物質の流出、悪臭、騒音、火災などのおそれがあり、景観も損なう。市としてこの現状をどう認識しているのか。

答 再生資源物や金属スクラップヤードが、地域住民の健康や環境に深刻な影響を及ぼす可能性がある重大な課題であると認識しています。全国各地で問題となっており、地域住民と連携して問題解決に向け取り組む必要があ

ると考えています。

国の規制の動きは

問 再生資源物は廃棄物でないため、「廃棄物処理法」の対象外で、法規制ができない。しかしこれは全国的な課題であり、法規制に向けた国の動きはないのか。県民局の環境課に対応を求めたが、国の動向を見守るとのことであった。

答 国においては、令和6年度にヤード環境対策検討会を設置し、金属スクラップなどの有害性、騒音、悪臭等に対する規制に向けた検討を行っているとしています。

「市民ファースト」で、国・県に率先して条例化を

問 現状では、自治会が対応しているが、法的に担保された権限がないため、実効性の面で

極めて弱い。国において検討されているとのことだが、法律が施行されるまでには、かなりの時間を要すると思われる。既に条例で規制している先進自治体がある。国・県の動きを待たず、率先して条例を制定して、市民生活を守る、それが行政の責務だと思うが。

答 市独自の条例制定は、地域特有の問題に対応できますが、国の基準との整合性を欠くおそれもあります。また、市の管理体制の問題もあります。基本的な規制の枠組みは国が整備し、県条例の枠内で、市条例を整備するのが望ましいと考えます。

■その他の質問項目

- ・ 新病院の基本構想・基本計画
- 新病院の耐震性能について
- 産婦人科クリニック誘致の取組について



中右 憲利 議員
(令和新風加西)

主要道路、河川の整備改修及び都市計画



問 県道三木穴栗線の西谷交差点から谷交差点までの歩道設置工事について。

答 当該区間の歩道設置工事は、兵庫県のひょうごインフラ整備プログラムにおいて、令和6年度～10年度の間に着手し、11年度～15年度の間に完成を目指す計画となっています。県道三木穴栗線では、西高室から東高室までの歩道設置事業が先行しているため、先行事業の進捗を考慮しつつ、兵庫県と連絡調整を行い、できる限り早期に着工できるよう取り組みます。

問 畑町の奥から西上野町のアクアス手前までの千歳川改修工事の予定について。

答 千歳川の改修は、令和7年度に兵庫県において事業評価が実施される予定です。着手妥当との審査結果を受けて事業が開始されますが、現地工事が始まるのは事業採択からおおむね2～3年後になると聞いています。地元との情報共有、兵庫県との連携を密にしながら、地域の安全安心に向けて事業を推進します。

問 令和8年3月末の線引き廃止に関し、地元から開発の要望があり、開発したい事業者が現れた場合の開発に至る手順について。

答 まずは、地元の開発要望と開発事業者の希望とのマッチングが必要となります。次に農

地法や農振法などの法手続、都市計画法や建築基準法に関する手続も必要となってきます。地元と事業者がウィン・ウィンの関係になれるよう、市としてもできる限り事業推進に協力していきます。

問 現在市街化調整区域にある空き家の、線引き廃止後の使用用途の広がりについて。

答 例えば集落内での床面積300平方メートルまでの物販店舗、飲食店、塾、保険やクリーニングの取次店などのサービス業の店舗が可能になります。場所によっては古民家ホテル、サテライトオフィス、社員寮などへの転用が可能です。また、それらの施設と住宅を兼用住宅として使用することも可能となり、使用用途はかなり広がると考えています。